

県内12人届け出

衆院選が公示

辺野古、改憲争点に

第48回衆院選が10日公示され、午前10時現在で県内の4小選挙区には前職9人、新人3人の計12人が県選挙管理委員会に立候補届け出た。第2次安倍政権にとっては2度目の総選挙であり、国民の審判が下される。県内では米軍普天間飛行場移設に伴う名護市辺野古への新基地建設や沖縄振興の在り方、改憲、消費増税などが大きな争点となりそうだ。

1区



国場幸之助氏(44)
自民前2



赤嶺政賢氏(69)
共産前6



下地幹郎氏(56)
維新前5

届け出順で、沖縄1区には自民

前職、共産前職、維新前職、幸福新人の4人。2区は社民前職、自民前職の2人。3区は無所属前職、幸福新人、自民前職の3人。4区は幸福新人、無所属前職、自民前職の3人

2区



照屋寛徳氏(72)
社民前5



宮崎政久氏(52)
自民前2

が立候補した。

2014年12月の前回選では、翁長雄志知事と共に辺野古新基地建設反対を掲げた「オール沖縄」勢力の候補者が全4選挙区を独占し、敗れた候補者は全員、比例復活による当選を果たした。前回選の立候補者全員が今回選にも立候補

3区



玉城デニー氏(58)
無所属前3



比嘉奈津美氏(59)
自民前2



下地玲子氏(59)
幸福新人

したことから、事実上、同様の選挙構図で改めて県内有権者の審判を仰ぐことになりそうだ。

安倍晋三首相の政権運営や改憲、自衛隊の位置付け、消費増税の是非や使途変更、森友・加計学園問題への対応、安全保障政策、財政再建への姿勢なども問われそうだ。

4区



仲里利信氏(80)
無所属前1



西銘恒三郎氏(63)
自民前4



金城竜郎氏(53)
幸福新人

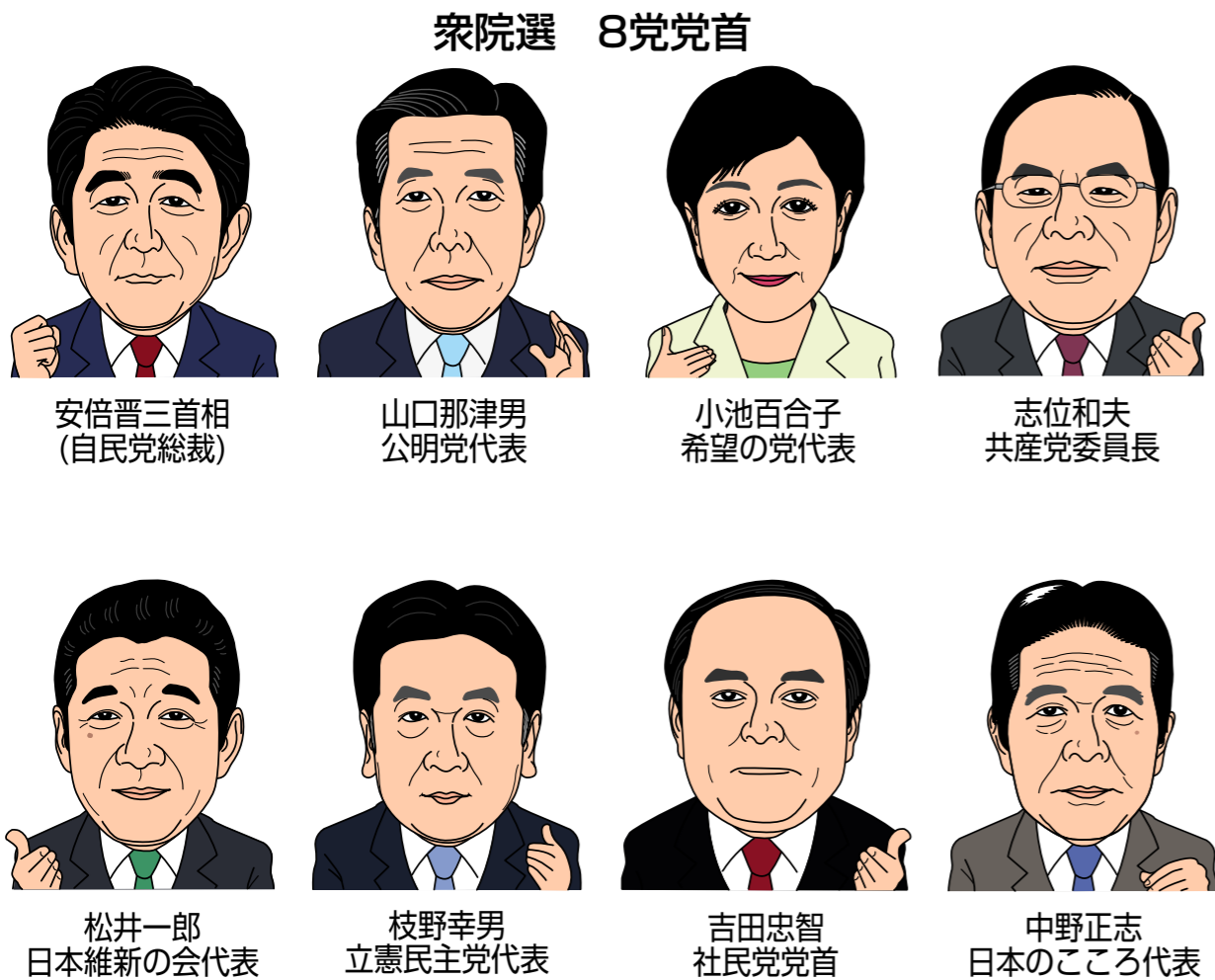


富川泰全氏(38)
幸福新人

全国1100人超立候補

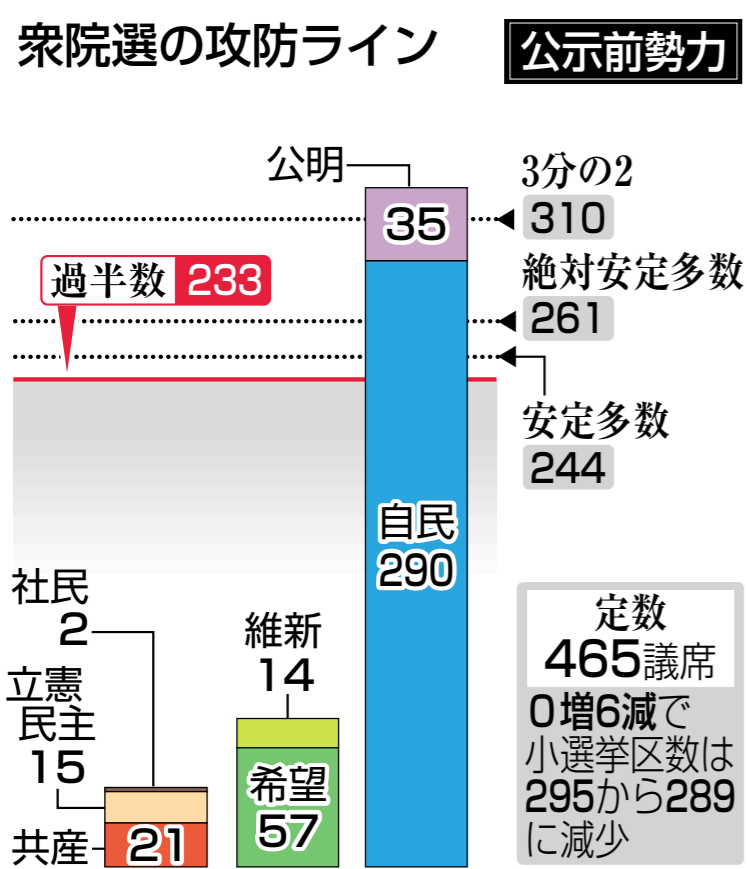
政権懸け、3極対決

第48回衆院選は10日公示され、12日間の選挙戦が始まった。5年近くにわたる安倍政治が問われ、有権者の判断を受けた政権の枠組みが焦点となる。憲法や消費税、原発政策を巡り論戦が交わされる。政権継続を狙う自民、公明両党と「希望の党、日本維新の会」、「共産、立憲民主、社民各党」の3極が対決する構図だ。与野党8党などから計1100人超が立候補し、計465議席(小選挙区289、比例代表176)を争う。22日に投票、即日開票される。



衆院選は2014年12月以来、安倍晋三首相(自民党総裁)は勝敗ラインを与党過半数(233議席)に設定した。民進党から希望の党に加わらなかつた枝野幸男元官房長官らが合流組を多く擁したが、希望の党(代表・小池百合子、東京都知事)は「安倍1強」体制の打破を掲げる。9条改正に反対する。小池氏は立候補せず、選挙結果を見て首相候補を判断する意向だ。自民党の一部を含む政権枠組みを模索しているとの見方もある。希望の党は日本維新の会と選挙協力を

衆院選の攻防ライン



※議長、副議長は出身政党に含めた。解散時に民進、自由議員だった者は希望、立憲民主に入党した場合は当該党派の所属扱いとした

衆院選の立候補届け出 小選挙区は各都道府県選挙管理委員会に、比例代表は全国11ブロック全てが総務省に届け出る。受け付けは公示日の午前8時半から午後5時まで。選挙犯罪で被選挙権を停止されている場合などを除き、25歳以上なら誰でも立候補できる。候補者の戸籍謄本か抄本、供託金の証明書のほか、比例は候補者に順位を付けた名簿が必要。書類に不備がないか事前に審査を受けていれば当日は短時間で受理されるが、「飛び込み」の届け出は時間がかかる場合もある。

実施。共産党は多くの候補者を取り下げ、立憲民主党などとの競合を避けた。自民党は消費税の用途、9条を含めた改憲論

「責任ある政治」追求を

解説 日本の針路を左右する衆院選が時だ。とりわけ財政政策では

公明、自民、希望の3党が選挙戦に突入した。各党の公約には聞こえのいい主張が並ぶが、財政悪化や人口減少、北朝鮮情勢の緊迫化といった難題を前に「責任ある政治」が何より

求められている。有権者が目を凝らして見極める時だ。安倍晋三首相(自民党総裁)は、消費税の用途を国の借金返済から教育無償化などに振り向けると訴える。2020年度の基礎的財政収支(プライマリーバランス)の黒字化目標を取り下げ、財政再建に向けた新しい目標を設定していない。

議に前向きだ。共産党や立憲民主党は消費税増税に反対し、原発ゼロを唱える。日本のこころも候補者を擁立する。今回の衆院選では「1票の格差」是正のため、計97選挙区で区割りの変更された。定数は10削減され、戦後最少。選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられてから初めての衆院選となった。

チェックする姿勢を政治評論家の有馬晴海氏の話 政策論争という意味で非常に分かりにくい選挙になっている。今回は政治勢力組み替えのタイミングということになるのではないかと。かつての民主党とは違う、本当の意味で政権交代可能で健全な保守の二大政党化が実現する可能性がある。有権者は、政治を見放さずに、チェックする姿勢を示してほしい。政策重視で考える。エッセイストの岸本葉子氏の話 政権選択選挙なら、政策に少し目をつぶった投票もありかとも思いましたが、そうではない感じですね。政策重視で考えようと思えます。憲法は大事と思う。改憲と言っても、どこまで丁寧な議論がなされたのでしょうか。ムードに流されるのはよくない。選挙になると、人気取りみたいな政策が並びますが、実現が不確かです。有権者を低く見ている反映かとさえ思う。政策をきちっと考えたいと思います。